

## I. 神奈川県内 c. 海成・河成堆積物

## (8) 相模層群の凝灰質砂層 露頭剥ぎ取り標本

標本番号 KPM-NP 61, 62, 63

標本名 相模層群の凝灰質砂層 露頭剥ぎ取り標本

大きさ (分割枚数)

KPM-NP 61: 幅 1.55 m, 高さ 3.7 m

KPM-NP 62: 幅 0.75 m, 高さ 1.93 m

KPM-NP 63-1, 2, 3: 幅 0.4 m, 高さ 0.3 m (3枚セット)

重量 KPM-NP 61: 37.3 kg, KPM-NP 62: 12.9 kg

KPM-NP 63-1: 2.6 kg, 63-2: 2.0 kg, 63-3: 2.1 kg

形状・展示・収納状況 KPM-NP 61, 62: 薄い絨毯状、短辺を軸に巻いて大型移動棚に収納。KPM-NP 63: 額縁入りのため、そのままの状態に収納。

採集地 神奈川県二宮町一色

緯度・経度 N35°19'20", E139°15'07"

標高 90 m

露頭の種別と現状 戦時中に掘られた地下壕内の人工壁面、現存

露頭面の向き、傾斜 KPM-NP 63, 65: NE-SW, ほぼ垂直

KPM-NP 64: NW-SE, ほぼ垂直

走向・傾斜 ほぼ水平

堆積物の種別 凝灰質砂層 (海成層、相模層群)

年代 約 20 万年前 (多摩中部～上部ローム層に相当。数 m 上位 (地下壕のすぐ外の自然崖) に TAm-1 の露出を確認、笠間友博氏私信)

採集作業 森山哲和 (考古造形研究所)

採集立会い者 石浜佐栄子、笠間友博、山下浩之、大島光春

採集日 2016 年 9 月 29 日～30 日

関連文献等 戦時下の二宮を記録する会 (2012) 二宮の洞窟陣地。戦時下の二宮を記録する会・会報誌「ひとしづく」第五号。204pp. 東京カラー印刷。

解説 海成の砂礫、火山砂および火山灰からなる、多摩中部～上部ローム層相当層。地下壕内の人工壁面に露出し、複数方向の切断面で、側方に連続して観察することができる。スコリアや軽石層をはさむことで、斜交層理、リップル、平行葉理を乱す脱水構造など、様々な堆積構造がより明瞭に見えている。地下壕の壁面には鑿で削った際の跡があり、標本中にも一部その痕跡が残る。

地下壕内に露出する層準 (図 Ic-8-2) の下部は、平板板やトラフ型の斜交葉理が見られ、西向きの流れを示す。一部、ローム塊の礫が散在し、スコリア層を含む。中部の白色の火山灰層は、円礫を含んだ平行葉理で全体に上方細粒化し、特に南北方向の断面で底面にリップル (クライミングリップル?) 構造がよく観察されるほか、頂部では火炎構造のような脱水構造も見られる。その上位の砂礫層は、数層に分かれ、それらの底面に 10 cm 大の円礫が散発的に存在している。上部の火山灰層では、下位で細かなリップル葉理構造、軽石が散在する層準付近で脱水による変形構造、上位 (天井付近) で軽石と砂による平行葉理が観察できる。なお、地下壕外の自然崖には、これらの上に礫層、軽石混じりの砂、

TAm-1 が重なることを確認している。

KPM-NP 61 は、高さ 1.6 m 程度の坑道に露出する地層を、1.55 m の幅でトンネル (アーチ) 状に収集 (図 Ic-8-3, 4)。KPM-NP 63 は KPM-NP 61 の左 (北東) 隣、KPM-NP 62 は 15 m ほど南側の空間で採取。

記録者 石浜佐栄子

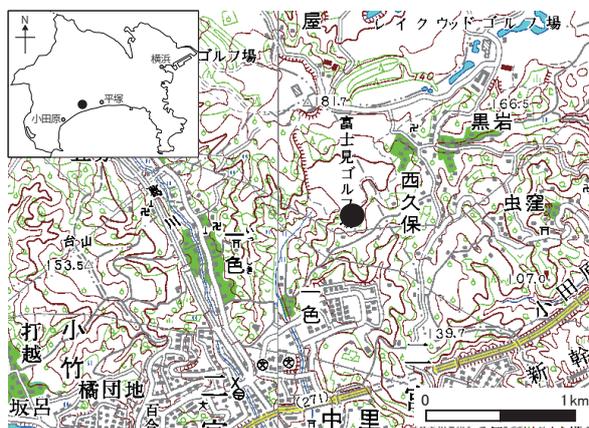


図 Ic-8-1. 採集地点 (国土地理院発行の数値地図 50,000 (地図画像)「埼玉・東京・神奈川」を使用)。

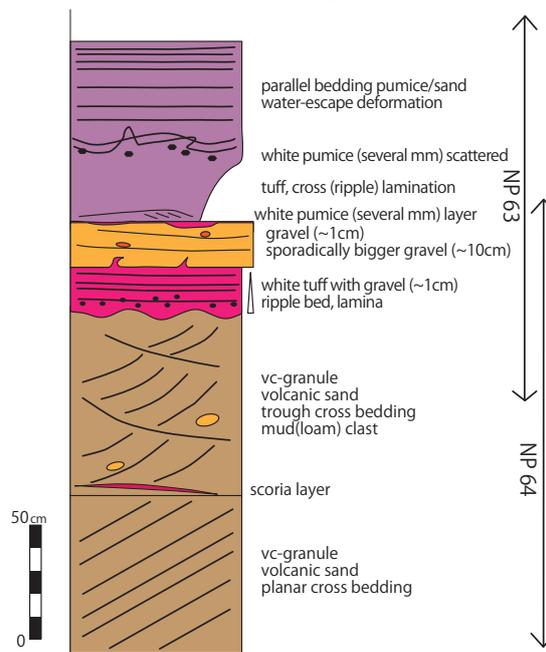


図 Ic-8-2. 地下壕内に露出する層準の柱状図 (石浜原図)。



図 Ic-8-3. 剥ぎ取り標本 (KPM-NP 61) の採集露頭。

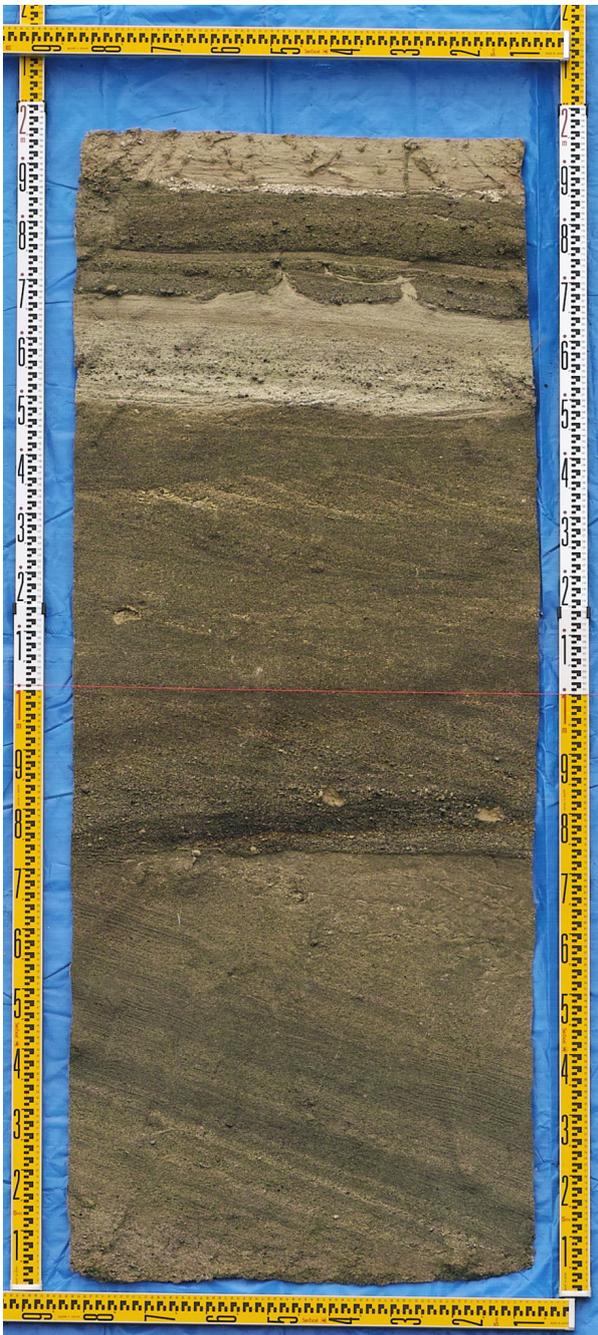
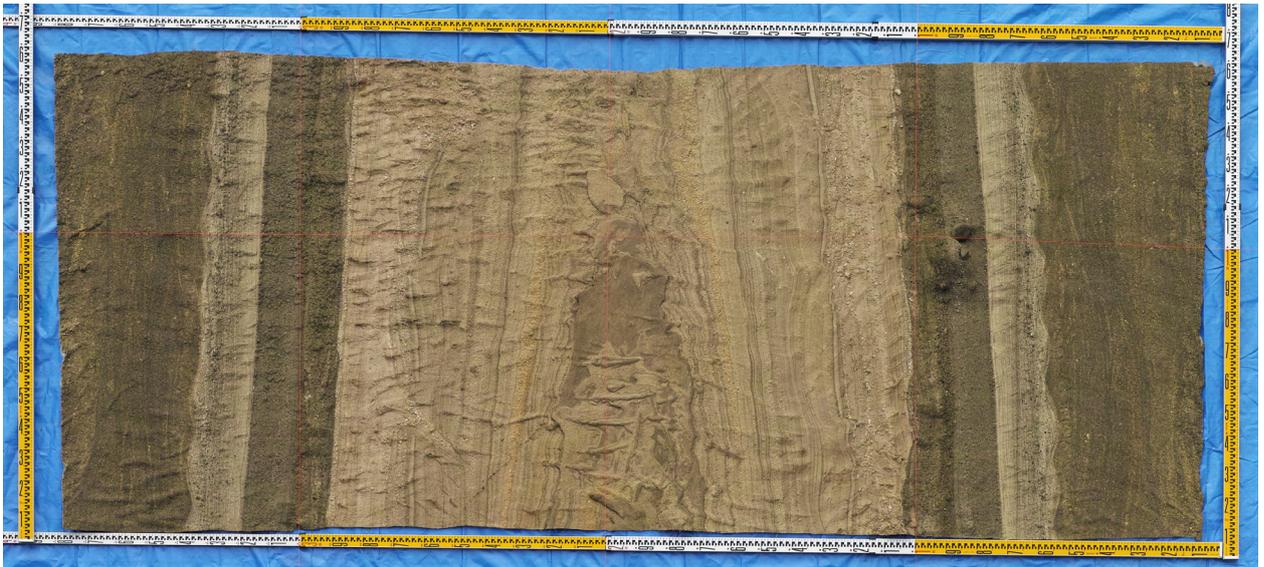


図 Ic-8-4. 剥ぎ取り標本 (KPM-NP 61) の写真 (上) と、露頭の様子 (下). 坑道に露出する地層をトンネル (アーチ) 状に収集. 標本の左右中心の縦軸線が天井部分に相当する.



図 Ic-8-5. 剥ぎ取り標本 (KPM-NP 62) の写真 (左) と、露頭の様子 (右). 赤枠内が収集の範囲.



図 1c-8-6. 剥ぎ取り標本 (KPM-NP 63) の写真 (左: 額装 3 枚セット) と, 切り取り前の剥ぎ取り標本の様子 (右). 赤枠がそれぞれの額装標本に相当する.